

指導教員によるコメント

本学生のアメリカ調査は、近代日本における陶磁器輸出の最大の市場であったボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアなどのアメリカ北東部の諸都市における、陶磁器コレクションとその関連史料の発見を目的としていた。合計で7箇所の美術館・博物館、2箇所の図書館を訪問する精力的な調査を行い、美術館・博物館では、各館が所蔵する陶磁器コレクションを総計170点ほど実見し、それぞれの館のアーカイブ部において関連史料を収集した。一方図書館では、19世紀後半にアメリカで発行されていた美術・インテリア専門雑誌を閲覧、調査した。

陶磁器と文献とを総合的に歴史的視点から行なうこの調査により、個人コレクションの重要性の発見、また史料の新発見や再評価への視点の確認など、今後の研究を進める上で重要な成果を挙げた。また、詳細な調査の内容が記されているこの調査報告書そのものが重要な学術的価値を持っているといえよう。今後の研究におおいに資すると高く評価することができ、論文の発表が待たれるところである。

小風 秀雅（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）